

平成29年度学校経営計画

当たり前の事を当たり前に行ける学校

はじめに

教師への信頼、落ち着いた授業態度や校内生活、元気な挨拶や器物破損の減少、一生懸命に取り組む部活動、やりきった行事など、充実した1年となった。特に3年生がリーダーとして活躍し、その姿を見て1,2年生が学び成長していく縦割り活動の進展が明るく前向きな校風として定着しつつある。反面生活面でのだらしなさ、学習にしっかりと向き合えない、心ない言動や行動、学校に足を向けられない生徒など、課題も依然として残されている。今後も生徒数減による学級減や教員減が続く。これまで続けてきた活動の整理や見直しが必要になってきている。南中のこれまで大切にしてきた特色ある教育活動の意義を確かめながら、新時代に向けた新たな教育課程をつくり上げていく。

校訓 正義 博愛 健康の意味

この校訓は昭和34年に制定され、正義は知を、博愛は情を、健康は意を含めた体を表しており、現在の学習指導要領の「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」のバランスのとれた「生きる力」の育成に他ならない。南中はこの知情意体のバランスのとれた育成を目指している。

南中教育の環^{かん}「学びあい」

南中教育の特色は「基礎学力とわかる授業」「基礎体力と生活リズム」「街づくりと南中ソーラン」であり、それを機能させるのが「学びあい」活動である。行事や部活動などの場面では「学びあい」活動が機能し着実に進展している。昨年度は南3校の学習面での「学びあい」にも共同で研究を始め、一定の成果を上げた。「学びあい」活動とは「人間関係づくり」と同義であり、「授業づくり」のみならず「学級づくり」も含めた全ての南中の教育活動の環となる。さらには南3校の共通の挑戦課題でもある。

また、この「学びあい」は生徒同士だけではなく、教師同士、親同士、生徒と教師、保護者と教師など「親育ち」「教師育ち」の「学びあい」でもあり、今後も大切に育てていく。

平成29年度経営の重点

(1) 教育目標 (平成28年度改訂)

自ら考え判断し、仲間と協力してやりぬく生徒～自立と共生を目指して

(2) 目標設定の理由

瞬発力(本番でパワーを発揮、やる時はやる)はあるが、持久力(先を見通し、粘り強く努力する)に弱さの見える南中生。素直で明るく人なつっこいが、話を聞けない、人を傷つける言動など、相手の気持ちを思いやることに弱さがある。自らの頭で考え、先を見通し、最後まで粘り強く努力する生徒、相手の立場を考えて、まわりと協力して生きていく生徒の育成を目指していく。

(3) 重点課題(南中生・南3校共通に育てる3課題)

- ① 学力向上 (「学びあいのある授業」「南中式基礎学5」「生活リズムと家庭学習習慣」)
- ② 他者と関わる力 (聞く力、表現する力などコミュニケーション力)
- ③ 感謝と思いやりの心 (道徳や講話、感謝する・される、思いやる・やられる体験活動)

学力向上は、教師の授業改善が不可欠だが、学校だけの努力ではなし得ない。子どもの貧困など、南地区の子ども達の置かれている深刻な現状に目を向け、子育て運動を土台に、小学校やPTA、地域、外部機関と連携・共同して、学力も含めた「生きる力」の育成に努めていく。特に地域と共にある学校として、中学校区の子育て連絡協議会の再構築を図っていく。

南中ではこれまでも「4つの気配り」「4担」の自覚を大事にして、力量向上に務めてきた。今年度も同僚性を基盤とした教師同士の「学びあい」を大切に教師個々・集団としての力量向上を図り、教育活動にあたる。

生きる力…自立する人間

90分家庭学習

社会性のある人間として生きていくために脳(心)を鍛えます。各教科の学習は様々な脳の領域を鍛えるための手段です。とりわけ論理的な思考を高める教科は重要です。また、学習は習慣化するまでにならないと脳に固定化されません。やはり、「継続は力なり」です。

90分は目安です。また、内容、時間配分は各自の工夫で。

8時間睡眠

睡眠の目的は、頭脳疲労・筋肉疲労・内臓疲労をとることといわれています。また、一番疲労のとれる睡眠時間帯としては22～2時の間といわれています。成長期の中学生であれば、疲労回復+成長のための睡眠でもありますので、個人差はあるものの6～8時間は確保したいところです。睡眠不足は脳(心)にも体にも良くありません。

3度の食事

健康な体の維持、成長発育の増進、脳を含めた体の活動のエネルギーを得るために食事をしますが、人と人とのつながりを深め心の豊かさを育むなど、心身両面の健全な発達に深く関わっています。人間らしく生きるための源でもあります。脳の効率追求だけではなく、心の栄養も満たすという食事の意義をもっと大事にしていきたいものです。

生活習慣の目標(3つの指針)

学校・家庭・地域の力あわせ(学びあい)

豊かな心育ちの目標(3つの正義)

素直な反省と謝罪

その人の人間性が如実に表れるのは失敗をしたときです。非を認め、きちんと謝罪する。そして、反省したことをそれからいかに。人としての大事な部分。人格形成の発展途上にある中学生はこの経験・学習が特に大事です。これができない人は寂しい生き方になる可能性があります。これをきちんと教えるのは大人の重要な役目です。

いじめは許されない

人類が地球に誕生してから様々な過ちを繰り返して、たどり着いたのが「ダメなものダメ」ということ。その典型的な例が「人を殺していけない」、「いじめはいけない」など。理屈ではありません。いじめはしてもされてもいけないもの。みんなが安心して生きることができる世の中にするための大原則です。

迷惑をかけない

人との関わり合いの中で、お互いが好き勝手なことをしてはコミュニティは崩壊です。万引きや器物破損などもそうです。

迷惑をかけないことと同時に人は迷惑をかけながら生きていることも認識することが大事です。矛盾しているようですが、人が支え合って生きていくとはそういうことです。だから感謝する心を育むのです。

稚内市の子育て運動